

アベノミクスの成長戦略について

平成30年度 3年2組(33) 眞鍋 茜音
指導 法文学部人文社会学科 新関 剛史

はじめに

- ・アベノミクスとは、自由民主党の政治家・安倍晋三が第二次安倍内閣において掲げた一連の経済政策に対して与えられた通称である。
- ・アベノミクスは、「どれだけ真面目に働いても暮らしが良くならない」という日本経済の課題の克服を目指している。
- ・アベノミクスは三本の矢で構成されており、成長戦略はその三本目の矢に当たる。

目的

- ①アベノミクスの成長戦略で、日本は本当に良くなっているのか
 - ②成長戦略では、どんな取り組みが行われているのか
- この二つについて研究する。



アベノミクス

第三の矢

人材の活用強化

成果目標

- 第一の矢
「大胆な金融政策」
- 第二の矢
「機動的な財政政策」
- 第三の矢
「民間投資を喚起する成長戦略」

- 投資の促進
- 人材の活用強化
- 新たな市場の創出
- 世界経済との統合

- ★女性が輝く日本
- ★若者の舞台は世界へ
- ★日本の中もグローバル
- ★適した仕事を選べます

- ①5年間で失業期間6カ月以上の者の数を2割減少させ、一般労働者の転職入職率を9%に。
- ②2020年に女性の就業率(25～44歳)を73%に
- ③今後10年間で世界大学ランキングTOP100に我が国の大学10校以上に

政策

- ①・②に関する政策
 - 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)の成立
 - 雇用保険法の改正
 - 次世代育成支援対策推進法の改正
- ③に関する政策
 - 採用選考に関する指針改正(一般社団法人日本経済団体連合会)
 - トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラムの実施
 - 英語教育の強化

成果

①の成果

- ・2017年の入職率は9.6%(一般労働者7.8%、パートタイム労働者15.6%)
- ・アベノミクス開始時点(2012年)では9.4%(一般7.5%、パート14.5%)
- この5年間で一般労働者の入職率を9%にすることを目標としていたため、目標は達成できていない。

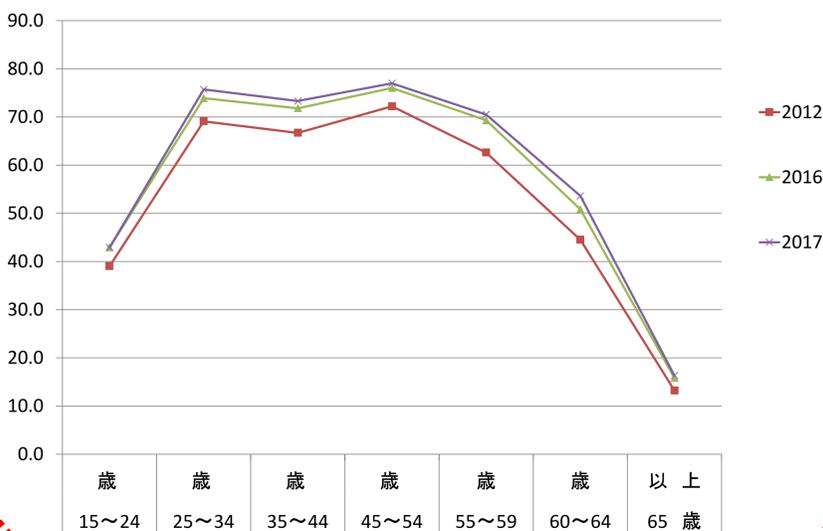
③の成果

- ・2016～2017年版の世界大学ランキングでは、東京大学・京都大学・東京工業大学・大阪大学・東北大学の5校がTOP100入りしている。
- 目標は2022年度版に10校以上なので、達成できる可能性はある。

成果

②の成果

- ・2012年の24～44歳の女性の就業率は67.9%
- ・2017年の24～44歳の女性の就業率は74.5%
- 目標は2020年に73%にすることなので、この目標は2017年の時点ですでに達成されている!



考察

- ・子育てへの支援に関する政策が多くある
- ・育休が取りやすくなったり、女性が管理職に就く割合も増えたりしている
- ・子育て中の世代(24～44歳の女性)が働きやすい環境が整えられてきている
- これまでに改善された問題とこれから解決する問題はたくさんあるので、今後さらに女性の就業率UPが予想される

結果

- ①アベノミクスで良くなっている面もあるが、変わらないところもある
→女性が働きやすい社会に変えることには成功しているが、入職率は大きな変化がない。今後、老若男女問わず働きやすい社会を目指していくべきである。
- ②成長戦略では、四つの項目に分けて日本の社会全体を良くするための政策を行っている
→成長戦略の中でも4つに分かれており、そのうちのひとつである人材の活用強化も四つの項目に分かれている。実現されていない政策やプランもたくさんある。現在までで実現された政策には、社会に良い影響を与えたものもある。

謝辞

この研究の指導をくださった愛媛大学法文学部の新関剛史先生、課題研究のための授業や日程を考えてくださった佐伯志保先生、本当にありがとうございました。



参考文献

- ・ホームページ (首相官邸/厚生労働省/内閣官房/総務省統計局)
- ・解剖アベノミクス 日本経済復活の論点/若田部昌澄
- ・アベノミクスを超えて/苦米地英人